

団体名 八百カフェ学生実行委員会

事業名

コミュニティマルシェ 八百カフェ

活動拠点 札幌市南区(芸術の森エリア、常盤エリア周辺)

設立の経緯 地域の人たちの社会参加や居場所づくりを目指すコミュニティカフェの企画を基に、学生主体の地域活動「マルシェの開催」を継続していくため実行委員会を発足。

私たちはこのような活動をしている団体です



学生が主体となり、興味関心を活かした「コミュニティマルシェ八百カフェ」を企画運営しています。多世代交流を通じて、モノ・コト・ヒトが集まる場を創出。イベントを運営するスタッフもイベントに参加する地域の人も共に、楽しいを入口に、居場所づくりと心身のケアを目指しています。



授業の枠を超えて地域グループと力を合わせたコミュニティづくり

私たちのルーツは、地域に交流を生み出すという札幌市立大学の授業課題で企画したコミュニティマルシェ「八百カフェ」にあります。授業の枠を超えて企画を実現したいと先生に相談したことから、10年以上にわたって地域で活動する朝市グループ「森の朝市」と協力しイベントを行ってきました。本事業の目的は、学生や住民の居場所・活躍の場づくり、地域コミュニティの形成です。6～10月に毎月開催したマルシェでは、地域農家やお店の出店をサポートし、札幌市立大学デザイン学部生がデザインしたグッズやフリースクールに通う子どもたちの作品を販売するなど、誰でも自分の得意を生かして出店できる仕組みを作りました。パフォーマンスステージや多世代交流の参加型企画、看護学部学生や地域で活動する医療専門職による健康相談なども行いました。



八百カフェらしさを大切に地域に「楽しい」と「ワクワク」を

当初は地域の交流拠点を作ろうという気持ちで始めましたが、全6回の開催を通じて徐々に参加してくださる方が増え、多くの方々が活躍できるプラットフォームになりました。地域の方々の交流のきっかけや活躍の場を作れたこと、運営や企画に関わる学生たちの活躍・経験となる活動ができたことがよかったと思っています。特に、一般の地域住民の方や子どもたちが趣味や特技を気軽に発信(出店)できるマルシェは他にあまりなく、「八百カフェらしさ」が生まれたと感じています。看護学部や医療専門職とも連携し、心身ともに満たされる本当の意味での「健康」を目指せるマルシェになりました。今後も「楽しい」「ワクワク」をきっかけに地域の皆様と協力し、私たち自身も進化や変化を楽しみながら、居場所や役割、健康づくりを目指していきたいです。

